



# たてやま おらがんまつち



## 館山市西岬地区洲崎

# みのこ踊りと 御旅出神事

海上から見た洲崎神社



### 地域の紹介

南の太平洋、北の浦賀水道と館山湾の入口を扼し、この岬を境に海の姿は一変します。晴れた日には、相模灘を隔てて正面に富士をおき、伊豆大島から、伊豆箱根の連山、丹沢の山々、三浦半島までが一望のもとにおさめられます。さらに、目前の海路には、さまざまな船が行き交う、洲「スサキ」の神の鎮座地にふさわしい雄大な景観であります。祭り前から始まる冬のストック栽培にむけての種まき、年間通じての釣り客用の仕立て船、夏場の潜り漁、働き者が多い半農半漁の地域です。

### 地域の自慢

いにしえの昔、忌部の人達が執行してたのかのような、御旅出の行列、神事。「祭りの原点を見ているかのような」。

八月の例祭日と二月の初午に奉納される県指定無形民俗文化財のみのこ踊り、市指定有形文化財の神社本殿、県指定天然記念物とされる「御手洗山」、安房國一宮としての神社の維持、管理。

脈々と続く富士講、正月のしめ縄飾りから、七月には各戸がおまんじゅうを作って奉納する祭事など、総勢四十名からなる、祭りごとを支える青年団の結束力。

百戸に満たない小さい地区での、大小三基からの神輿の維持、今だに続けられる祭り当日の芸能祭、心の絆の深さが感じとれる集落です。

### みのこ踊り

毎年初午と八月二十日〜二十二日の神社例祭に奉納されます。「みろく踊り」と「かしま踊り」の二種類からなり、地元ではこれらを「みのこ踊り」と呼んでいます。

踊り手は、基本的には小学生から中学生までの女の子が中心ですが、近年は児童の減少から成人の女性がまじっています。

オンドトリと呼ばれる一名の太鼓役と二名の歌役が中央に座り、その周りを踊り手たちが円形に取り巻き、太鼓と歌にあわせて踊ります。「みろく踊り」は、左にオンベ「長柄の御幣」を肩に担ぎ、右に扇を持つ。初午の時のオンベは、青竹に神と五色の幣束、例祭の時のオンベは、白幣束と鏡、世直しを願う念仏踊りの系譜にあり、弥勒が遠い海の彼方から訪れ、富や豊作をもたらすという内容。「かしま踊り」は、扇のみを使う。鹿島の神人が一年の豊凶を告げ歩く「事触れ」に由来するもので、悪霊払いを目的としています。

### みのこ踊り



昔のみのこ踊りの様子



現在のみのこ踊り

